

令和6年（2024年）4月2日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の防除対策（技術情報第1号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

本年産の麦類の生育は平年に比べて早く、赤かび病の防除適期が例年より早まる。また、気象予報では、向こう1ヶ月は、発生に好適な気象条件が続く予想であるため、ほ場をよく観察し、防除適期を逃さないようにする。

1 麦類の生育と赤かび病の発生条件について

- (1) 農産園芸研究所作物研究室（合志市）の作況調査では、令和6年産麦（11月21日播種）の生育は平年に比べて早く、出穂期は、はるしずく（二条大麦）で3日程度、シロガネコムギ（小麦）で8日程度早い（表1）。
- (2) アメダス実測値（熊本市）を用いた赤かび病多発条件出現日の判定では、4月1日時点で、3月23～29日、31日に感染に好適な条件が認められている（表2）。
- (3) 福岡管区气象台が3月28日に発表した気象予報によると、向こう1ヶ月（3月30日～4月29日）の気温は平年より高い予想のため、麦の生育は今後も早まることが予想される。また、降水量も平年並か多い予想のため、気温と併せて、本病の発生に好適な条件が続くと予想される。

表1 令和6年産（令和5年度）麦における出穂期

麦種	品 種	本 年	平 年	平年比
大 麦	はるしずく	3月23日	3月26日	3日早い
小 麦	シロガネ コムギ	3月23日	3月31日	8日早い

※播種日は両品種とも11月21日

農産園芸研究所作物研究室調査

表2 麦類赤かび病の多発条件出現日(熊本市:アメダス実測値)

令和6年4月1日 現在

月日	2024年 (R6)		2023年 (R5)		2022		2021		2020		2019		1998年 (H10) 多発年
	大麦	小麦	大麦	小麦	大麦	小麦	大麦	小麦	大麦	小麦	大麦	小麦	小麦
3/15						☆							
3/16						○			○				
3/17			◎						◎				
3/18			○			◎		出穂					
3/19													
3/20									◎	出穂 ○		○	
3/21			◎						◎	出穂	出穂	◎	
3/22	大麦 出穂期	◎	☆	小麦 出穂期								○	
3/23	◎		◎										
3/24	◎		◎	大麦 出穂期									
3/25	◎		◎										
3/26	◎		◎			◎				◎	小麦 1回目		
3/27	◎		◎			◎				◎		出穂	◎
3/28	◎		◎							◎			◎
3/29	◎		◎					1回目	◎	◎			
3/30								◎	◎	◎			
3/31	◎			小麦 出穂期						◎			
4/1											◎		◎
4/2	防除 1回目										◎		◎
4/3											◎		◎
4/4											◎		◎
4/5											◎		◎
4/6											◎		◎
4/7											◎		◎
4/8											◎		◎
4/9											◎		◎
4/10	2回目										◎		◎
4/11											◎		◎
4/12											◎		◎
4/13											◎		◎
4/14											◎		◎
4/15											◎		◎
4/16											◎		◎
4/17											◎		◎
4/18											◎		◎
4/19											◎		◎
4/20											◎		◎
4/21											◎		◎
4/22											◎		◎
4/23											◎		◎
4/24											◎		◎
4/25											◎		◎
4/26											◎		◎
4/27											◎		◎
4/28											◎		◎
4/29											◎		◎
4/30											◎		◎
5/1											◎		◎
5/2											◎		◎
5/3											◎		◎
5/4											◎		◎
5/5											◎		◎
5/6											◎		◎
5/7											◎		◎
5/8											◎		◎
5/9											◎		◎
5/10											◎		◎
5/11											◎		◎
5/12											◎		◎
5/13											◎		◎
5/14											◎		◎
5/15											◎		◎
5/16											◎		◎
5/17											◎		◎
開花期～乳熟期の多発条件(☆)出現日数	-		2		11		2		6		5		16
発病穂率(%) 5月上中旬調査	-		1.4		2.7		0.04		0.7		1.1		84.0

※出穂期は農研センター(合志市)の作況調査(大麦:はるしづく 小麦:シロガネコムギ)

※開花日は農研センターのシロガネコムギ実測値。

-----:乳熟期終(開花後28日)

【発生予察事業調査実施基準より】

○: 子のう殻形成の好適条件 (日平均気温13℃以上、当日または前日に降雨があった)

◎: 子のう胞子飛散の好適条件 (日最高気温15℃以上、日最低気温10℃以上、当日または前日に降雨があった)

☆: 多発条件 (日平均気温が18℃以上、当日または前日に降雨があった)

<防除適期>

大麦 1回目: 穂揃い期の10日後(出穂期12日~14日後)、2回目: 1回目の7~10日後
小麦 1回目: 開花始~開花最盛期(出穂期7日~10日後)、2回目: 1回目の7日~10日後

2 防除対策について

- (1) 赤かび病の薬剤散布時期は、小麦では開花を始めた時期から開花期（1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50％に達した日）までの間及びその7～10日後。二条大麦では、穂揃い期（全茎の80～90％が出穂した日）の10日後頃及びその7～10日後。
- (2) 赤かび病の防除薬剤は予防効果が主体であるため、散布時期が遅れないよう適期に2回の防除を行う。また、開花期は気温に左右されるため、今後の生育状況に注意する。なお、降雨が続き防除適期を失した場合も、天候の合間を見計らって薬剤散布する。
- (3) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

※アメダス実測値を用いた赤かび病多発条件出現日の判定結果を病虫害防除所のホームページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>) に掲載し、随時更新します。

熊本県病虫害防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)

担当：守田 TEL 096-248-6490